

来年の3月を見据えて



札幌市医師会
ため小児科医院

多 米 豊

気が付いてみると83歳。近隣の開業医の中で最年長になっていました。開業して49年。その間、大過なく過ごせたのは、今は亡くなられた先輩の諸先生、仲間の先生方のサポートのお陰と心から有難く感謝しております。

体力も気力も衰えるのは当たり前のことです。体力を少しでも温存させようと、一昨年までは月に2～3回エアロビクスに通っていましたが、さすがに無理になって、今年からはヨガに変更するつもりです。

気力を何とか保たせるために、日中は静かな診察室で文庫本を読んでいます。若いころのように大作は無理で、ふらーっと本屋に入って面白そうな本を買うことにしています。いつの間にか好きな作家が増えてきました。司馬遼太郎も愛読しましたが、ここ数年は五木寛之、浅田次郎、宮本輝、隆慶一郎、百田尚樹、神坂次郎、医師の作家では帯木蓬生、大鐘稔彦、川淵圭一、夏川草介、平野国美、久坂部羊、そして渡辺淳一などを、最近の世相を書いたものでは垣根涼介、原宏一、柳広司など、女性作家では、山崎豊子、米原万里、向田邦子などです（敬称略）。さまざまな世の中の現象を過去、現在にわたって展開してくれる読書の魅力は尽きません。

診療が終わると暮の時間が始まります。碁（5）といっても私は8級くらいなので、（5）ではなく（2.5～3）くらいかもしれません。学生時代にうろ覚えのまま基礎が全くないので、正しく五里霧中です。本を読んでもすぐに忘れてしまいます。最初のうちは碁会所にも通いましたが、思うようにいかず、パソコンで打つことにしました。ほとんど毎日1時間は打っています。なかなか上達はしませんが、とにかく負けても負けても楽しいのが不思議です。（だから上達しないのです！）せめて5級になりたいと思っています。そんな状態なので、札幌の囲碁クラブに入会させていただきましたが、皆様は段持ちですので、9子置いてはまだ勝ち星がありません。本来ならば相手にもしていただけない棋力の私なのですが、皆様の寛容の精神に救われて、末席を汚しています。何とかそのご好意に報いなければと思っています。

今の私を一番興奮させてくれるのは、ディーゼルカーの運転です。数年前、帯広から100km離れた陸

別の道の駅に寄った折、“りくべつ鉄道、気動車の運転体験”という看板が目飛び込んできました。子どもころから汽車の運転手になりたかった私は早速申し込みました。リタイアした本職の運転士が傍らについて指導してくれるのです。左手は加速器、右手はブレーキ、左足はデットマン装置（5秒間足が離れると自動的に非常ブレーキが掛かる）を踏み、右足は警笛と、両手両足に各々役割があるのです。左手を少し動かす（1ノッチ）と、エンジンが掛かり、ゴーッという音がし始めます。さらにもう少し動かす（2ノッチ）と、ゴットンという音とともに気動車が動き始めます。その時の気分たるや何とも言えない満足感と充実感が体の中を駆け巡ります。体験運転では時速20km以上は出せません。コースにはS、L、銀河とあり、銀河コースになるとCR70形／CR75形のディーゼルカーで、北見方面へ1.6kmの、昔ふるさと銀河線として使われていた線路の上を走ることができます。ゴトンゴトンと走る爽快さは他では絶対に味わえません。今まで5回ほど乗りましたが、今年も体験したいと思っています。

そして今、目標としているのは、来年3月に開通する予定の北海道新幹線に乗ることです。なんと言ってもあのH5型の車両に乗るぞと思うと元気がわいてきます。それまでは何とか健康でいたいと願っている今日このごろです。

この機会をお与えいただいた山科賢児先生に感謝しつつ筆を置きます。

